

都市再生整備計画

まつやまし みつはまち く
松山市三津浜地区

えひめけん まつやまし
愛媛県 松山市

平成21年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	愛媛県	市町村名	松山市	地区名	松山市三津浜地区	面積	92 ha
計画期間	平成 21 年度 ~ 平成 24 年度	交付期間	平成 21 年度 ~ 平成 24 年度				

目標

大目標：『渚文化の拠点』としてのアメニティ向上を図り、住民・来訪者が共に快適に過ごせる、魅力・活力あふれるまちづくりを実現する

目標1:地域交流・子育て支援を目的とした地域の“核”となる拠点づくりを目指す。

目標2:地域の魅力を創造するため、古くから残る地域固有の文化資源を活かした回遊性の高い空間を実現するため、地域の魅力を創造する。

目標3:持続的なまちづくりを行うため、地域コミュニティの体系化を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

■地区の概況

本地区は、本州と四国とを結ぶフェリーが発着する「海の玄関口」であり、また、江戸時代や明治時代を彷彿させる古い町並みや、室町時代から航行している三津の渡しなど文化資源が残る歴史が息づく趣のある地域である。

また、夏には、本市最大のイベントである「松山港まつり・三津浜花火大会」の会場となり、市内外から毎年8万人もの人々が訪れる。

近年の経済発展に伴う生活の変化や交通機関の多様化等により、この20年間で人口は約24%（約2千人）減少する一方で、高齢者の割合は平成元年の17.4%から平成20年の28.3%へと増加しており、少子高齢化の影響を強く受けている地域である。

さらに、空き店舗率が7割を超え、シャッター通りと化しており、蔵や商家等の古建築物も維持管理の困難さから取り壊しが進み、地区本来の魅力が失われかけている。

地区内の地域交流施設・子育て支援施設は、築40年経過しており、平成14年度に実施された耐震診断により、耐震不足が指摘されている。

■まちづくり計画

本市は、平成11年から『坂の上の雲』を軸とした21世紀のまちづくりとして都市観光の振興に取り組んでおり、小説『坂の上の雲』ゆかりの史跡や、地域固有の文化資源が点在するまち全体を、屋根のない博物館に見立てて、まちづくりを展開する「ワールドミュージアム観光の策定」

フィールドミュージアム構想は、松山城周辺のセンターゾーンと6つのサブセンターゾーンで構成されており、本地区は松山西部地区の地域拠点であるサブセンターゾーンとして位置付けられている重要な地域である。

平成15年に『松山市観て歩いて暮らせる街づくり交通特区』の認定を受け、地域の实情にあった交通規制の提案が可能となり、回遊性の高い交通体系の実現を目指している。

交通特区の効果の実現に向けて、官・学・民等が参画した「総合的まちづくり協議会」を設置し、「拠点とネットワークづくり～元気は地元から～」を基本テーマに、道路整備の方向性、効果等を地域が一体となった取組みを進めている。

■市民主体のまちづくり

平成6年に地域住民を中心に結成された「平成船手組」は、三津浜の町並みを回る「みづはま生活博物館」の開催や、道路清掃等を行っており、平成17年度まちづくり月間大臣表彰を受けるなど、まちづくりへの関心意識が非常に高い地域である。

市民と行政とが役割分担を果たしながら、地域に根ざしたまちづくりを進めるための「まちづくり協議会」の設立準備会が発足し、市民主体のまちづくりの土壌が整いつつある。

課題

急激な人口減少が進んでいる三津浜地区においては、かつての「渚文化の拠点」としての輝きが失われつつあり、地域の魅力・活力を創造するための仕掛けが急務の課題である。

「海の玄関口」としての歴史・文化資源が存在しているが、人口減少、施設の老朽化等により、それらをまちづくりに活かす取り組みがなされていない。

■地域交流施設・子育て支援施設は、老朽化による耐震不足及び、エレベーター未設置等による未バリアフリー化が課題となっている。

■土壌が整いつつある地元のまちづくり組織の更なる活動促進が求められている。

将来ビジョン(中長期)

渚文化の拠点、復興により、都市観光の振興を図るとともに、『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想のサブセンターゾーンとしての拠点づくりを目指す

第5次松山市総合計画の目指す将来像として、「憧れ誇り日本一のまち松山」を掲げており、分野ごとの基本方針（産業・経済・魅力と活力あふれる産業・経済の振興、都市基盤・中核市にふさわしい都市基盤の整備）を定めている。

松山市都市計画マスタープランにおける都市の目指す将来像として、スムーズな人流・物流の誘導のため、本州とを結ぶ海の交通結節点である三津浜港を広域交通拠点として位置づけ、松山市の海の玄関口にふさわしい拠点づくりを、位置付けていく。

松江市都市計画マスタープランにおける旧市街地の整備方針として、本地区は「特色ある町並み形成」が掲げられており、古くからの風情ある町並みを活かしながら、市民、来訪者が共に快適に過ごせるまちづくりを目標としている。

また、つやま子育てゆめプランにおいて、子どもを安心して産み、健康やかに育てることができる環境づくりに向け、地域社会全体で子育てを支援するという基本理念のもとに、児童の健全育成に資するために拠点となる活動施設の充実を目指している。

目標を定量化する指標

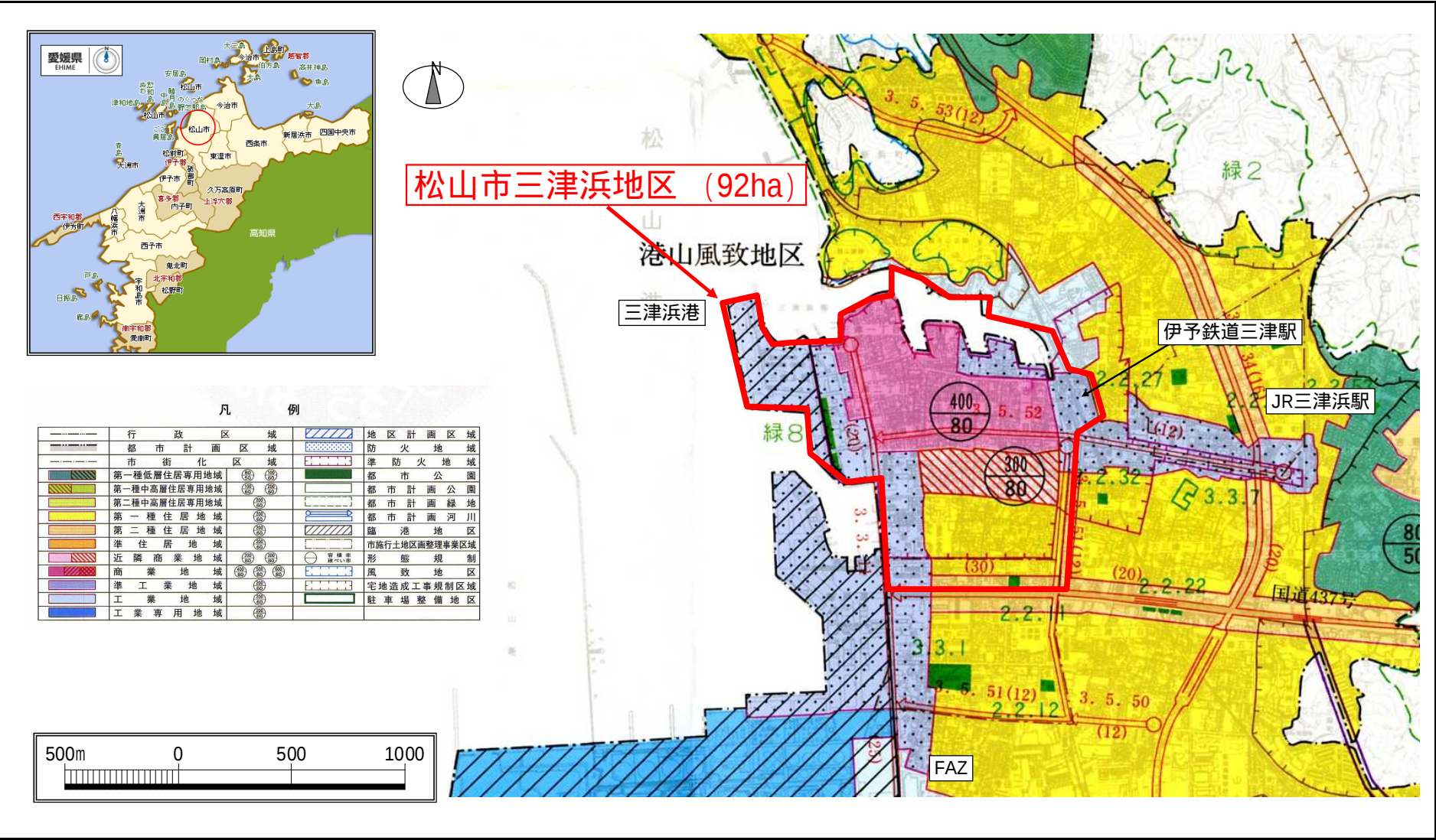
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
地域交流拠点施設の利用者数	人	(仮称)三津浜地域交流センターの年間利用者数	人にやさしい施設としてリニューアル整備することにより、地区内外の活発な交流活動を推進する	14,000	19年	16,000	24年
子育て支援施設の利用率	%	(仮称)三津浜児童クラブへの入会割合	子育て支援対策としての児童クラブ施設の充実により、地域における子育て気運の醸成を促進する。	25	20年	40	24年
高質空間の通行者数	人	商店街の通行者数	既存商店街の高質空間化によって、地区の賑わいを促進する	720	20年	820	24年
地域まちづくり活動の回数	回	まちづくり協議会の設立準備会開催総数	地域主体のまちづくり会合開催によって、地域コミュニティの醸成を図る	10	20年	20	24年

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	
整備方針1(地域交流・文化交流を目的とした地域活性化の拠点づくり) ・耐震不足と未バリアフリー化が課題である既存地域交流施設をリニューアルすることで、地域住民の相互交流を目的とした“核”となる拠点づくりを行うとともに、併設する地域住民の生活拠点である行政センターとしての支所も整備し、地域の活性化を図る。 ・地域交流施設建設に伴い、既存施設である「三津浜厚生福祉センター」の取壊し撤去を行う。 ・子育てしやすい環境づくりのために、放課後児童の安心で安全な居場所となる児童クラブ室を整備し、地域で子育てを行うという気運の醸成を促進する。	方針に合致する主要な事業 高次都市施設(基幹事業: (仮称)三津浜地域交流センター) 地域創造支援事業(提案事業: 三津浜厚生福祉センター取壊) 地域創造支援事業(提案事業: (仮称)三津浜児童クラブ整備) 市単独事業(関連事業: 三津浜支所整備)
整備方針2(地域の魅力の創造) ・地区のメインストリートである商店街の舗装高質化・照明灯の整備により、観て歩いて楽しい賑わい空間の再生を図るとともに、回遊性の高い都市を実現する。 ・フィールドミュージアム構想において、地域固有の文化資源に位置づけられている「三津の渡し」は、老朽化が進んでいるため、舟艇を新造することにより、地域の魅力創造に繋げる。 ・観て歩いて楽しい賑わい空間の再生に寄与するため、NPO等の実施する高質空間等を活用したイベント活動に対する補助を行う。	高質空間形成施設(基幹事業: 市道三津浜53・1・42号線) 地域創造支援事業(提案事業: 「三津の渡し」渡船建造) まちづくり活動推進事業(提案事業: 「坂の上の雲」のまちづくり事業)
整備方針3(地域コミュニティの形成) ・整備後のまちづくりを地域主体で行うため、まちづくりの地元組織づくりの支援により、地域コミュニティの形成を図り、持続的なまちづくりの実現を目指す。	まちづくり活動推進事業(提案事業: 「坂の上の雲」のまちづくり事業)
その他 ■まちづくり交付金の効果的な活用 平成16年度に、本市の“松山市中心地区”がまちづくり交付金の新規採択を受けており、平成20年には『第3回まち交大賞』を受賞している。 “中心地区”においては、“『坂の上の雲』フィールドミュージアムの具現化により、都市観光の振興を図り、「市民生活の質の向上」と「地域経済・社会の活性化」を目指す。”ことを大目標として掲げている。 本地区は、この『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想におけるサブセンターゾーンに位置づけられており、これまで実施してきた各種施策との相乗効果によるまちづくりが期待されている。 ■オムニバスタウン計画との連携 本市は、平成17年3月に、全国11番目・四国では初となる『オムニバスタウン』の指定を受けている。 同計画では、三津浜地区の交通拠点である『伊予鉄道三津駅』の交通結節点整備が位置付けられており、具体的には、駅舎改修・駅前広場整備・新規バス路線運行が盛込まれるなど、公共交通を軸とした環境に優しいまちづくりを実践している。 ■事業完了後の継続的なまちづくり活動 当該地区では、市民と行政がそれぞれの役割を分担しながら、連携・協力してまちづくりを行うために活動の主体となる「まちづくり協議会」の設立に向け、準備を進めている。平成21年度末には協議会を設立して、「住民主体の計画性あるまちづくり」に順次取り組むこととしており、市と協議会の協働によるまちづくりを継続して推進していく。 ■交付期間中の計画の管理について 計画の進捗管理については、地元の会合等で随時、進捗状況を情報公開し、地元住民の意向に沿った進捗管理を行う。	

都市再生整備計画の区域

松山市三津浜地区 (愛媛県松山市)	面積	92 ha	区域	三津ふ頭、三津1,2,3丁目、住吉1,2丁目、神田町、三杉町、梅田町、元町、須賀町、被川1,2丁目、港山町
-------------------	----	-------	----	---



【提出様式】

まちづくり交付金の事前評価チェックシート

地方整備局名 四国 都道府県名 愛媛県 市町村名 松山市 地区名 松山市三津浜地区

I. 目標の妥当性

チェック欄

①都市再生基本方針との適合等	
1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。 (該当するものに○) 1. 中心市街地活性化 2. 防災 3. 少子高齢化 4. 人口定着 ⑤観光・交流 6. アメニティ 7. 交通利便性 8. 都市活力 ⑨地域コミュニティ 10. その他	○
2) 上位計画等と整合性が確保されている。 (該当するものに○) ①市町村総合計画 2. 都道府県長期計画 3. 都市再生緊急整備地域 4. 構造改革特別区域 5. 地域再生計画 6. 全国都市再生モデル調査 7. 被災市街地 8. 中心市街地活性化計画 9. その他	○
②地域の課題への対応	
1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標を設定している。	○
2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置付けが高い。	○

II. 計画の効果・効率性

③目標と事業内容の整合性等	
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5) 地域資源の活用やハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
④事業の効果	
1) 十分な事業効果が確認されている	○
2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○

III. 計画の実現可能性

⑤地元の熱意	
1) まちづくりに向けた機運がある。	○
2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2) 交付期間中の計画管理（モニタリング）を実施する予定である。	
3) 計画について住民等との間で合意が形成されている。	○